

2017年2月3日 一志会特別例会(パロマ清洲工場視察・研修会)を実施しました。

一志会では、例会とは別に、会員有志が幹事となって、毎年、一泊の特別例会を企画・開催していますが、今回は、椎名氏(KPMG コンサルティング副社長)及び小林氏(パロマ社長)が幹事となり、パロマ清洲工場の視察・研修会を2月3日に実施しました(参加者18名)。

パロマは、1911年創業のガス機器の老舗大手メーカーですが、今回、視察見学した清洲工場は主にビルトインコンロを部品加工から組み立てまで一貫生産する国内主力工場の一つです。

まず、小林社長から歓迎のご挨拶をいただいた後、浦川取締役(経営企画担当)、中島取締役(生産担当)、丹羽取締役(総務担当)からそれぞれパロマの歴史・全体概況、生産体制の特徴、安全・安心な製品づくりに向けた全社的取組などについて説明を受けました。

長い歴史の中で、幾多の変遷をへて、米国を主体に海外にも積極的に展開するとともに、国内にあっては住生活環境の変化に伴う需要製品の変化、さらには国内市場の先行き縮小への対応が求められる中、新製品の開発への取り組み、そして辛い経験を踏まえての「安全・安心な製品づくり」の全社挙げての徹底ぶりを伺いました。



その後、清洲工場を視察見学しましたが、組み立てラインはもとより、プレス・切削・樹脂加工など部品加工現場が整然と整理され、清潔なことに目を見張りました。また、各工程とも、不良品発生防止のための様々な工夫がなされ、「ヒューマンエラーの絶滅」「FMEA(故障・不具合の防止を目的に、潜在的欠点の分析手法の活用)」、「人財の育成」に注力していることを、十分に感じるものでした。

視察後の質疑では、参加者から「生産性向上と不良品発生抑止とはどうとらえているか」「製品の安全・安心確保のために取り組むうえで大切なことは何か」「現場での改善提案など、意欲が高い従業員の多いのはなぜか。それに対するインセンティブはどうしているか」などと、相次いで質疑が交わされました。

その熱気をそのまま引き継いで、場所を変えて開催した懇親会でも、同席したパロマの幹部の方々も交えて、熱い意見交換が続きました。名古屋名物の鶏味噌すき焼きをほおぼりながら、時を忘れた充実した研修会となりました。

